

ふくい南青山291

ふくい南青山291は、飲食スペースやイベントスペース、ワークスペースを併設した施設。都心にいながら、福井の食や風土を体験し、福井の人とつながる交流拠点です。



東京メトロ千代田線・銀座線・半蔵門線
「表参道駅」B3出口より徒歩4分

〒107-0062
東京都港区南青山5-4-41 グラッセリア青山内
TEL 03-5778-0290
営業時間 9:00-21:00
定休日 不定休(年末年始を除く)

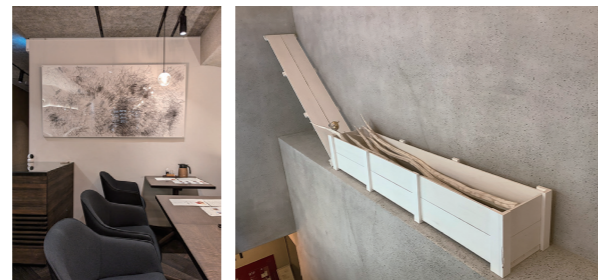
ふくい食の國291

ふくい食の國291は、県内各地から厳選した食品と工芸品のショップや、福井の食を凝縮したイトインスペース「越前若狭 食と酒 福とほまれ」、福井の旅をお手伝いする観光移住情報コーナーを有する複合施設です。



JR山手線・京浜東北線「有楽町駅」京橋口改札より徒歩5分
東京メトロ「銀座駅」A9出口より徒歩5分
東京メトロ 有楽町線「銀座一丁目駅」5番出口より徒歩1分
※エレベーターをご利用の際は、東京メトロ 有楽町線「銀座一丁目駅」6番出口をご利用ください。

〒104-0061
東京都中央区銀座1-5-8 Ginza Willow Avenue BLDG 1階・地下1階
TEL 03-5159-4291
営業時間 10:30-19:00
定休日 不定休(年末年始を除く)



Gallery 291は、ふくい食の國291でも作品を展示しておりますので、ぜひご覧下さい。

お問合せ先

福井県交流文化部文化・スポーツ局文化課 文化振興グループ
TEL:0776-20-0580
FAX:0776-20-0661
E-mail:bunka@pref.fukui.lg.jp

Gallery 291

2026 —→ 2027

MINAMI-AOYAMA — GINZA



Gallery 291

福井県では、世代、性別、国籍、障がいの有無にかかわらず、様々な人たちが創り出したアート作品を一堂に展示し、アートの視点から共生社会の実現を考える「まるまるつながるアートてん まる」を令和5年度より開催しています。この展覧会は、「現代美術」「障がい者アート」「子ども美術」のすべてを、「優れたアート」として対等に展示するコラボ展です。ここ、「ふくい南青山291」では、福井県内在住の作家によるこれら3つの美術の作品を展示します。ご覧ください。



作品の詳細、購入についてはこちらをご覧ください。

1F玄関



西井 武徳

Statement

素材とモチーフと自分との関係を大事にしなが、制作をしています。自分の思いを込めつつ、素材の魅力を引き出せるような彫刻作品制作を目指しています。

作品名: vanishing point ('18)
制作年: 2018
素材: 銀杏
サイズ: H180×D60×W50 (cm)

1F階段下



松見 知明

Statement

風によってやってくるものがある。海の近くに住む私の元へは、砂浜に打ち寄せる波の音や磯の香りがとどく。その風のはじまりを辿り、遠く広がる海原に思いを馳せるとき、この身体と世界は確かにつながっていると感じる。この作品は、そんな、風に身を向ける私の小さな喜びを表したものである。

作品名: 風をさく
制作年: 2025
素材: 楠、杉、顔料
サイズ: H63×D40×W38 (cm)

2F受付前



長谷 光城

Statement

展示作品は、1983年の第16回日本現代美術展で大賞を受賞した「内部一連結」シリーズのなかの1点です。若狭和紙の原料である楮とパルプを用いて、手漉き手法で準備した型に流し込み、紙の立体作品を制作しました。作られた紙を使って作品を創るのではなく、紙を作ることが作品を創る新しい表現を試みたのです。

作品名: 内部一連結
制作年: 1982
素材: 楮、パルプ
サイズ: H180×D80×W80 (cm)

2Fコワーキングスペース



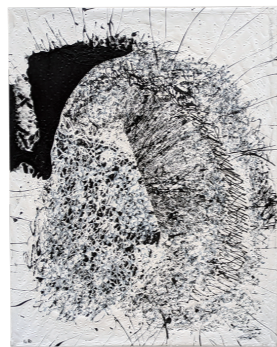
黒川 三博

Statement

テーマは我々の生きる(生かされている)環境である。加速度的に環境は生物にとって対応出来ない状況である事に視点を置き、「安らぎ→願望 安らぎは、しずく。身近な自然の変容に危惧を想う(後戻りが出来ない)。命のかたちはどうなるでしょうか。

作品名: しずくのコラボレーション
制作年: 2023
素材: 化学繊維布・アクリル樹脂塗料
サイズ: H110×D110×W9 (cm)

2Fコワーキングスペース



作品名: 滴のコラボレーション
制作年: 2023
素材: 化学繊維布・アクリル樹脂塗料
サイズ: H92×D112×W15 (cm)

2Fコワーキングスペース



中村 公彦

Statement

何事も短期集中の彼ですが、書道の時間だけは最後まで集中して取り組みます。書のテーマはいつも「家族」。若くして離れて暮らす家族を思わない日はありません。筆を持つと家族との思い出を語りながら、一筆一筆書き進めます。彼にとって家族を想う大切なひとときとなっています。

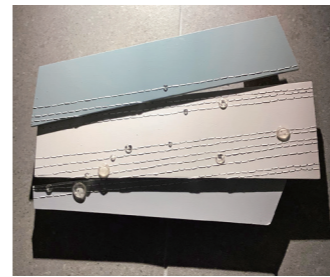
作品名: 家族
制作年: 2025
素材: 画仙紙、墨
サイズ: H180×D60 (cm)

chika takida

Statement

捨象にて表現をひらく。意識の輪郭をずらしながら、偏重から包含へ。離れた肉体、残された問い。何かを描くかではない。

2F 男子トイレ



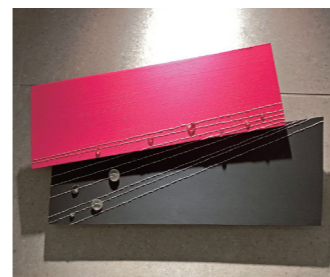
小林 雅代

Statement

若狭での自然に囲まれた生活は、身体も心も潤わせてくれる。それらを体感し、表現する。自然の美しさ、人との出会い、何気ない日常などを時間の流れのとともに、1つ1つ丁寧につむいでいく。

作品名: つむいで、つなぐ
制作年: 2025
素材: ベニヤ板、塗料、綿糸、樹脂
サイズ: H28×D42 (cm)

2F 女子トイレ



作品名: つむいで、つなぐ
制作年: 2025
素材: ベニヤ板、塗料、綿糸、樹脂
サイズ: H28×D37 (cm)

2F 廊下



松永 康明

Statement

令和3年から制作を始め、人物や時事ニュースをモチーフに、感じたことをカラーマジックで表現している。色彩豊かな構成は、独自の感覚で配置され、躍動感がある作品を制作している。

作品名: 花火にむかって
制作年: 2025
素材: ケント紙、サインペン
サイズ: H124×D89 (cm)

2F Soil



作品名: ひらくとじる
制作年: 2025
素材: キャンバス・ミクストメディア
サイズ: H112×W324 (cm)

江戸 雄飛

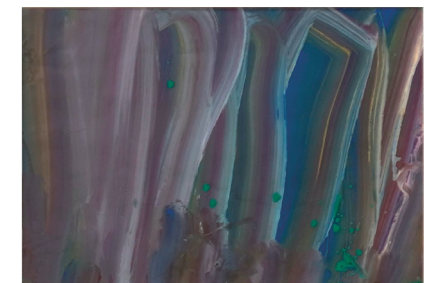
Statement

テレビや新聞等で見聞きした語句などを、文字や猛スピードのストロークで書き重ねていく。何度も書き重ねて線の塊ができると、余白を見つけ、手を動かす。重なった文字やストロークは、絵画の根源を問う抽象画を創りだしている。

作品名: 2020-C11
制作年: 2020
素材: ロール紙、油性ペン
サイズ: H91×D150 (cm)

福田 柚華

2F Ling



制作年: 2025
素材: 画用紙
サイズ: H38×D54 (cm)

高橋 凜

2F Calm



制作年: 2025
素材: 画用紙
サイズ: H38×D55 (cm)

中西 莉音菜

2F Dusk



制作年: 2025
素材: 画用紙
サイズ: H38×D54 (cm)